

## 令和3年度第8回行政改革審議会

- 1 開催日時 令和4年1月13日（木）15時08分～15時21分
- 2 開催場所 福岡県庁知事応接室（8階）
- 3 出席者 1名
- 4 会議次第
  - (1) 福岡県行政改革審議会答申について
  - (2) その他

### 5 議事録

事務局：それでは、ただいまから第8回福岡県行政改革審議会を始めます。まず、行政改革審議会津田会長よりごあいさついただきます。

会 長：6月2日に、知事から行政改革のあり方につきまして諮問を受けまして、概ね月1回のペースで審議会を開催してまいりました。県行政の諸課題に係る改革方針について審議を行ってきたわけでございます。審議会では、県当局から県行政のかなり難しい現状と課題を聴取いたしました。認識を共有しながら、副会長である非常に深い知見をお持ちである辻教授をはじめ、各界でご活躍の委員の方々から本当に色々な切り口、観点から忌憚のないご意見が多く出されました。有意義で活発な議論であることを私も認識しましたし、私自身も勉強させていただきました。ありがとうございました。本日は、これまでの審議を通じて出された改革の方向性について、審議会として取りまとめました答申書を提出いたします。県におかれましては、この答申を真摯に受け止めて、取組内容の具体化を図り、職員が一丸となって行政改革に取り組んでいただくことを強く期待いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。それでは、会長から知事に答申をお願いします。

(答申手交)

事務局：続きまして、知事からあいさつを申し上げます。

知 事：津田会長をはじめ、行革審の委員の皆様におかれましては、先程お話をいただきましたが、昨年6月に諮問させていただきまして、それ以来、7回にわたって御審議を賜りまして、大変お忙しい中、皆様にご協力をいただきまして、本当にありがとうございました。このたび、ただいま答申をいただいたところでございます。

改めて本当に御礼を申し上げたいと思います。今の行政改革大綱を平成 29 年に策定したところをございまして、そこから考えてみますと、やはり引き続いて少子高齢化というものが本県においても進行している、また、去年の 8 月の豪雨災害など、5 年連続 6 度にわたる災害が発生しております。さらには、一昨年からの新型コロナウイルス感染症の類、このような自然災害あるいは生物災害、こういったものが起こっております。こういった中、コロナの中で我が国のデジタル化の遅れというものについて改めて認識をさせられ、それと同時に政府もデジタル庁を立ち上げられる等、急速に日本におけるデジタル化、また DX（デジタルトランスフォーメーション）の取組というものが進みつつあるということになったと思います。あるいは、コロナについて申しまして、私の政策でも掲げさせていただいておりますが、人と動物と環境、この健全性というものを一つに捉えるワンヘルス、これがやはり感染症への対抗、薬剤耐性への対抗、こういったことを考えても非常に重要であると、こういう認識もかなり広まってきていると感じております。大きくそういった状況が変化をし、また進行もしております。こういった変化を踏まえた上で、津田会長をはじめ、審議会の皆様におかれましては、これまでのような行政改革においても職員数の削減といった「量的な見直し」これだけでは限界があると、やはり今申しましたような、社会の変化あるいは技術の進展、こういうものを踏まえた改革の取組が必要ではないかということをおっしゃっていただいております。そういった意味でも、県庁における DX への取組をしっかりと進めていくことが必要であると、また職員の定年が段階的に引上げられるということが控えておまして、これを考えた時に高齢層職員の数が増えていきます。今現在は再任用の方がいらっしゃいます。また、定年延長があるということ、高齢層職員の方のモチベーションというものをいかに維持していくのかということが非常に重要であるというご意見を賜っております。さらには一方で若手職員についても、私も知事になって若手職員の皆様から色々な業務の見直し等について意見があったら出してくれと、途中で邪魔せずに聞くようにするからといって、2,400 の提案をいただき、約 1,900 の提案を実現できたということがありました。これは 1 度、昨年やってきたわけですが、やはり若手職員の皆様が業務見直しに限らず政策形成等においても、色々な若手職員のアイデア、発想、そしてやる気というものを育てていく必要があるというご意見をいただきまして、新しい取組を進めていく環境整備が必要だということもおっしゃっていただいたところ、こういった様々な観点から御意見を賜ったところ、ございまして、これらは非常に重要な観点だと思っております。今回いただきました答申を踏まえまして、我々としては、速やかに行政改革大綱を策定してまいりたいと思っております。それと、我々は今、これからの県の指針になります 5 年間の「総合計画」の策定を進めておまして、やはりこの総合計画をしっかりと下支

えするといいますか、これが行政改革ということになります。行政改革大綱はそういう意味からも総合計画が目指す県づくりを支えるものとしてしっかり作ってまいると、それを実行してまいりたいと思っているところでございます。本当にこの答申の取りまとめにあたりまして、津田会長には大変ご苦勞いただきまして、委員の皆様方にも本当はおひとりおひとり御礼を申し上げたいところでございますけども、また改めて御礼を申し上げたいと思います。本当に重ねて御尽力に対して感謝申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

事務局：ありがとうございました。これを持ちまして第8回福岡県行政改革審議会を終了いたします。津田会長、服部知事、どうもありがとうございました。